

# 「白密陀菊蝶箔絵盆」保存修復報告

上江洲安亨\*1 室瀬和美\*2 鷺野谷一平\*3

## 1. はじめに

一般財団法人沖縄美ら島財団首里城公園管理部所蔵「白密陀菊蝶箔絵盆」の保存処置は、平成24年5月25日から平成25年3月25日まで、目白漆芸文化財研究所内の修復施設に於いて行われた。以下は修復内容を記録したものである。

なお監督職員を上江洲安亨とし、修復責任者を室瀬和美、修復担当者を鷺野谷一平とした。

## 2. 名 称

白密陀菊蝶箔絵盆 4枚

## 3. 概 要

湾曲した罌をもつ丸盆。表側は白密陀塗りで、罌の外側は緑漆塗り、底部は黒漆塗りである。罌の内側は、菊花と枝葉を箔絵で交互に配す。見込み部分の中央には、一枝の菊枝と周りに蝶や蜻蛉が舞う様を、箔絵により絵替わりで描く。縁は金箔を貼り、その上に透漆が塗られている。

(法量)	径	高	(cm)
	31.0	3.0	

## 4. 現 状

経年による木地収縮および塗膜劣化が原因と思われる亀裂が(個体差はあるが)見込みから罌にかけての表面全域に生じている。中でも大きな亀裂のある部分は木地接合部とみられ、亀裂は底面にまで達している。罌の白密陀塗り部分や箔絵部分には、塗膜剥離および剥落がある。黒漆塗りの底面は、表面ほどではないが全域に亀裂が生じている。表裏共に、埃・汚れのため本来の艶を失っている。

## 5. 修復方針

現在、我が国で行われている指定文化財漆工芸品の保存修復に則り、現状保存修復を原則として行うこととする。修復に際しては、十分に事前調査を行い、傷みの現状を確認した上で修復工程を決定する。また、写真撮影を伴った修復の記録を取り、修復後と比較できるようにし、修復終了後に報告書を作成し提出する。

---

\*1 一般財団法人沖縄美ら島財団 首里城公園管理部 事業課長補佐兼調査展示係長

\*2 目白漆芸文化財研究所 代表取締役

\*3 目白漆芸文化財研究所 修復技術者

## 6. 修復作業

### <修復前撮影と調査>

修復前に、修復後との比較ができるよう写真撮影を行った。また、素地、下地、加飾および現状の傷みを調査記録し、修復作業工程を確認した。

### <養生とクリーニング>

毛棒で全体の埃を払い、剥落の危険がある塗膜部分は、小片に切った雁皮紙を生麩糊で貼り、作業中の剥落を防止した。その後、水を僅かに含ませた柔らかい綿布および綿棒で塗膜汚れを取り除いた。剥落の危険がある塗膜部周辺のクリーニングは、塗膜の押さえ作業を行った後、塗膜の安定を確認してから行った。



### <塗膜押さえ>

表面の白密陀および箔絵部分の剥離塗膜の接着には膠を用い、木杵と竹ひごの弾力を利用した心張り法やクランプを用い圧着安定させた。



### <亀裂部安定>

表面の大きな亀裂部を安定させる処置として、通常使用する麦漆による含浸を行った場合、亀裂部際の白密陀の塗膜表面に入る細かな亀裂に麦漆が滲むことが考えられるため、膠による含浸を行った。膠の含浸は、亀裂の程度（深度）に応じて濃度を変えて数回行った。



### <亀裂部接着>

底面の亀裂部を安定させる処置として、麦漆の含浸を行った。麦漆の含浸は、亀裂の程度に応じて濃度を変え、数回に分けて亀裂部の接着を行った。



#### <刻苧充填>

安定処置を施した亀裂部分および縁の損傷部分は、麦漆に麻の繊維と木粉を混合した刻苧による充填を行った。刻苧の充填は、亀裂の程度（幅）により木粉の粗さを変えて、数回に分けて行った。乾固後、刻苧部の表面を周辺塗膜を傷めないように注意しながら、砥石で平滑に整えた。



#### <下地付け>

刻苧を充填した亀裂部分および塗膜が剥落した部分に、生正味漆に水と地の粉を混ぜ合わせて充填する下地付けを行った。乾固後、刻苧充填時と同様に下地表面を砥石で平滑に整えた。



#### <際錆>

下地付けを行った亀裂部分および塗膜が剥落した部分に、生正味漆に水と砥の粉を混ぜ合わせて充填する際錆を施し、触手による塗膜の剥落防止とした。



#### <彩色>

修復処置を行った亀裂部分および損傷部分は黒色で、白密陀塗りの部分や金箔貼りの部分において修復箇所が黒く目立つため、担当者との協議の結果、展示の際に違和感の無いよう彩色を施すこととした。彩色は、顔料を膠で溶いた可逆性のあるもので行った。



#### <修復後撮影と報告書作成>

修復後の撮影を行い、修復記録をまとめ、報告書を作成した。

## 7. 修復工程

- ①修復前撮影・記録
- ②養生・クリーニング
- ③塗膜押さえ
- ④亀裂部安定
- ⑤亀裂部接着
- ⑥刻苧充填
- ⑦下地付け
- ⑧際錆
- ⑨彩色
- ⑩修復後撮影・報告書作成